

① 大木
② 足手
③ 口火

④ なまみず
⑤ みかづき

② イ
① はらばい
③ 風

④ おもちやのような町

⑤ イ
⑥ ウ

③ ア
① オ
② ウ
④ エ
⑤ カ
⑥ イ

④ ア
①

② A コウモリのかからだ

B つばさがある

③ ア 2
① イ 1
① ウ 1

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

① 「大」には「ダイ」「タイ」という音読みがある。「木」にも「ボク」「モク」という音読みがある。② 「足手まとい」は、そばにいてじやまになるという意味。③ 「話の口火を切る」は、最初に話し始めるという意味。④ 「生」の訓読みには「なま」「き」「いきる」「うむ」「はえる」などいろいろある。⑤ 「三日」と「月」が合わさってひとつのことばができてくる。そのときに「ミツカ」という読みが「ミカ」にかわる。

②

1 アオくんが **B** をしたので、おおどろぼうさんは「風がつよくなってきたか？」と聞いているのだからと考える。寒くなってきたから、**B** をしたと思っっているのである。

2 だれのまねをしたのかという問いなら、答えは「おおどろぼうさん」である。では、おおどろぼうさんは何をしているのか。問いの「どのようなしせい」も見落としてはいけない。

3 「**②**」ののって「いるのは「音」である。いろいろな音が「**②**」ののって「きこえて」くるのである。

4 問いの「何を見て」を見落とさないようにしよう。「ばら色の細い道」「ばら色の小さくなるま」「ちっちゃい学校」などいろいろなものを見ているが、それらをまとめてのべたことばがある。

5 すぐ後ろの「というの」は、理由をのべるときに用いることばである。「というの、そこは……緑台小学校だったのです」と書かれている。

6 「はらばいになって下のようすをながめました」や「下のけしきをのぞいてみると……おもちゃのような町が見えました」などから、高いところにいることはわかる。ただし、飛行機では「はらばい」にならないし、人の声もきこえてこないだろう。

③ 親子に關係のあることわざばかり出題した。

- ① 子どもは親に似るものだ。
- ② 平凡な親からは平凡な子どもしか生まれない。
- ③ 平凡な親がすぐれた子どもを生む。②と反対の意味のことわざである。
- ④ 子どもはあまやかして育てるより、手もとからはなして苦労させた方がよい。
- ⑤ 親の評判や実力のおかげで、子どもが幸運にめぐまれること。知らない人が多かったらうが、「親の光は」のつづきであることから、意味はわからなくても、正解が選べるはずである。
- ⑥ 親が早く亡くなっても、残った子どもはどうにか成長していくものである。

④

1 **A**の前には、「手の指とうでのあいだが、膜ですっかりおおわれて……」とあり、後ろには「尾と両足のあいだも……膜でおおわれて……」とある。二つの事柄を、似たこととしてならべている。**B**の後ろは、「つばさの膜」について説明を追加している。

2 はじめに文章を通して読んだときに、一行めの「コウモリのからだの大きなくちようは」に注目して、この文章はコウモリからだのどくちようについての話であると気づいておきたい。さらに読み進めて「もうひとつのどくちようは」まで来たときに、ここが二つめのどくちようであると気づいておけば、文章の内容がよく頭に入る。

3 アについて、「コウモリの羽」がよくない。二行め「鳥のつばさには羽がありますが、コウモリにはありません」を読んだときに、「つばさ」と「羽」がちがうことに気づいておきたい。「つばさ」に生えているのが「羽」である。イは二つめのどくちようそのものである。ウについて、「かさの骨みたいに細く変化したうでや手の指」とはつきり書かれている。